

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-215970

(P2004-215970A)

(43) 公開日 平成16年8月5日(2004.8.5)

(51) Int. Cl.⁷

A45B 3/00

F I

A45B 3/00

テーマコード (参考)

Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2003-8644 (P2003-8644)</p> <p>(22) 出願日 平成15年1月16日 (2003.1.16)</p>	<p>(71) 出願人 80200019 株式会社新潟ティーエルオー 新潟県新潟市五十嵐2の町8050番地</p> <p>(72) 発明者 渡辺 末松 新潟県新潟市五十嵐一の町7350-5</p> <p>(72) 発明者 梁取 美智雄 茨城県電ヶ崎市緑町228</p>
--	--

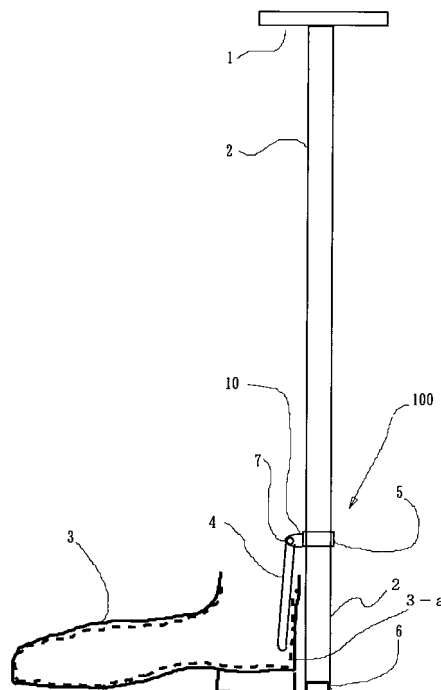
(54) 【発明の名称】 靴籠付き杖

(57) 【要約】

【課題】 老人が杖を持って行動している時、靴を履いたり脱いだりするには、かがんだり立ったりしなければならぬ。これは近くに適當なる靴籠がないことによる。

【解決手段】 杖2に靴籠取付け機構100を設け、これに靴籠4を取付ける。靴籠取付け機構100はバンド5、それに付いているボス10、軸7から構成されている。靴籠4の端部は前記軸7に回転自在に取付けられる。靴3を履く時は、この靴籠4を用いて行えば、かがむことなく靴3を履くことが可能となる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

杖に靴籠を靴籠取付け機構を介して取付けたことを特徴とする靴籠付き杖。

【請求項 2】

前記靴籠取付け機構部に、靴籠の位置を任意の位置に止める機構を具備して成る請求項 1 に記載の靴籠付き杖。

【請求項 3】

前記靴籠取付け機構部に、少なくとも靴籠の先端の位置が、靴籠取付け機構部の軸を中心として、それより上部とそれより下部の位置になるような機構を具備したことを特徴とする請求項 1 に記載の靴籠付き杖。

10

【請求項 4】

杖に靴籠を靴籠取付け機構を介して取付けるとともに靴籠の先端の位置を、靴籠取付け機構の軸を中心としてそれより上部の位置に止めるため、靴籠取付け機構の上部の杖の部分に、靴籠止め具を設けたことを特徴とする靴籠付き杖。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は老人用の杖と靴籠に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

本発明に近い公知例としては実用新案登録願番号第 3048418 号なるものがある。

20

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

老人は杖を持って歩行しているが、立ったり、かがんだりすることは容易でない行動である。特に靴を履いたり、脱いだりする際にはかがんだり、立ったりする。これは靴籠がそばに無いことが多いことによる。靴籠があったとしても近くに無かったり、自分に合う長さのものが無いので難儀な作業となっていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】

杖の一部に靴籠取付け機構を設け、これに靴籠を取付け、靴籠を動かすことができるようにする。必要に応じて靴籠は靴籠取付け機構を中心として 180 度回転可能とする。すなわち靴を履くときは靴籠取付け機構部から靴籠は下方部に吊り下がった状態にして、この靴籠を靴のかかと部を持ち込んで足を入れて靴を履く。その後靴籠を 180 度回転して上方部に移動し、ここで止めることができるようにする。これにより靴籠の付いた杖を自由に移動して歩行に利用し易くする。

30

【0005】

【発明の実施の形態】

図 1 は本発明の靴籠付き杖の一実施例の構成図である。杖 1 の一部に靴籠取付け機構 100 が設けてある。この靴籠取付け機構 100 はバンド 5，それに付いているボス 10，ボス 10 に設けてある軸 7 から成っている。この軸 7 に靴籠 4 の端部が付いていて、軸 7 を中心として靴籠 4 は動かせるようになっている。この図 1 では靴籠 4 は下方部に吊り下げられている状態になっている。靴 3 のかかと部 3 - a を靴籠 4 と杖 2 との間に入れると足を靴 3 の中に挿入することが可能となる。すなわちこの靴 3 を履く操作において、かがむという動作は避けることができる。靴 3 を履いた後は靴籠 4 を靴 3 からはずして杖 2 をそのまま歩行に利用することができる。この杖 2 の上部には必要に応じて柄 1，杖 2 の下部には滑り止め 6 が付いているが、本発明の必須構成要件ではない。

40

【0006】

図 2 は本発明の杖 2 に付いている靴籠取付け機構 100 の一実施例の構成図である。これはボス 10 の外周りに複数個のストッパー 10 - a を設けるとともに、靴籠 4 側に凹部 4 - a を設け、その中にバネ 14 とボール 15 を設けたものである。このようにすると靴籠

50

4を回転しながら任意の位置に止めることができる。

【0007】

図3は図2の変形実施例の構成図(上面図)であり、図4は図3のA-A'断面図である。これはバンド5に付いているボス10内にバネ14とボール15を設け、それに対応した靴篭4側のボス16部の内側にボール15を止めることのできる、複数個の穴15-aを設けたものである。このような方法によっても、靴篭4を回転しながら、任意の位置に靴篭4を止めることが可能となる。

【0008】

図5は図2または図4の実施例の靴篭4を回転しながら任意の位置に止めた状態を示したものである。

10

【0009】

図6は図2の変形実施例の構成図(上面図)である。これはボス16とボス10を貫通する軸17の一端にネジを設けて靴篭4側の雌ネジ19内にはめ込み、他端にロックつまみ18を設けたものである。靴篭4を任意の位置まで回転し、そこでロックつまみ18を回して雌ネジ19部を締めることにより、靴篭4を固定することが可能となる。

【0010】

図7は本発明の杖の靴篭取付け機構の他の実施例の拡大構成図である。杖2に付いているバンド5にボス10が設けてあるが、このボス10に凹部10-bを作り、この凹部10-b内にバネ14を装着し、この先端にボール15を設けておく。一方靴篭4の上端部のボス16と前記ボス10は軸7によって連結されている。靴篭4のボス16の外面は2つの平面16-a, 16-bと1つの曲面16-cとによって構成されている。曲面16-cとボール15が接している場合は、曲面16-cがボール15上を転がり易く不安定であるが、平面16-aとボール15, 平面16-bとボール15とが接触すると平面16-aあるいは16-b面はボール15上を転がりにくく安定になる。このためボール15に対して平面16-aが接するように、靴篭4を上方向に移動した場合は、靴篭4を上方向に安定的に定置させることができる。一方ボール15に対して平面16-bが接するように、靴篭4を下方向へ移動した場合は、靴篭4を下方向に安定させることができる。これによって靴3を履くことを容易とする。

20

【0011】

図8は図7の実施例の靴篭4を上方向に移動して格納した状態を示した図である。

30

【0012】

図9, 図10は図7の変形実施例の拡大構成図である。これは靴篭4のボス16部に凹部16-aを設け、この内部にバネ14を装着し、その先端部にボール15を設けたものである。一方バンド5に付いているボス10の外面は、2つの平面10-a, 10-bと一つの曲面10-cとによって構成されている。靴篭4を上方向に回転してボール15がボス10の平面10-bに面した時には靴篭4は上方向の位置で安定する。図10は靴篭4を上方向に安定して定置させた状態を示している。一方靴篭4を下方向に回転してボール15をボス10の平面10-aに面するように位置すると、靴篭4は下方向の位置で安定する。

【0013】

図11は本発明の靴篭付き杖の他の実施例の構成図である。図1の実施例において、バンド5に付いているボス10と靴篭4の端部の回転部分との摺動面がよく密着させた設計にしておくと靴篭4は、杖2を歩行具として利用している時に動揺することはない。しかし何回か靴篭4を動かして利用していると摺動面に隙間が生じ歩行具として利用している時、靴篭4は動揺して邪魔になる。このような事態を無くするため、図11の実施例ではバンド5の上部の杖2部にバンド8を設け、これに板バネ9を取付けた靴篭止め具200を設けて、この板バネ9部に靴篭4の先端を図示のように止める。

40

【0014】

図12は図11のバンド8と板バネ9で構成されたスプリング式の止め具200の拡大構成図である。板バネ9は靴篭4の先端の出し入れを容易にするため図示のように湾曲して

50

いると便利である。

【0015】

図13は図11の変形実施例の構成図である。これは止め具200として、釘11-aを杖2に打ち込み、その先端を靴篭4側に突出して止めピン11としたものである。

【0016】

図14は図13の実施例に用いる靴篭4の構造を示したものであり、靴篭4の上部に穴12が設けてある。靴篭4を杖2の上部に格納する時は靴篭4の穴12を前記止めピン11に引っかける。止めピン11の位置を穴12より若干上部に配設しておくことと止めピン11を下方に曲げながら穴12に挿入できる。このようにすると止めピン11のパネ力が生じ穴12は止めピン11にしっかりと固定できる。

10

【0017】

図15は図13の変形実施例の構成図である。これは釘11-aの代わりにバンド8を設け、これに図示のようなテーパの付いたホック13を設けたものである。このようにすると靴篭4の穴12をホック13にしっかりと止めることができる。

【0018】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、杖に靴篭を取付けて同時に持ち運べるようにでき、靴の履くこと脱ぐことの動作において、かがんだり、立ったりする動作をすることがなくなり実用に供して便利となった。

【0019】

20

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の靴篭付き杖の一実施例の構成図

【図2】本発明の靴篭付き杖の靴篭取付け機構の一実施例の構成図

【図3】図2の変形実施例の構成図

【図4】図3のA-A'断面図

【図5】図2または図4の実施例の靴篭を任意の位置に止めた状態を示す図

【図6】図2の変形実施例の構成図(上面図)

【図7】本発明の他の靴篭付き杖の靴篭取付け機構の実施例の拡大構成図

【図8】図7の実施例の靴篭付き杖の靴篭を上方向に移動して格納した状態を示す図

【図9】図7の変形実施例の拡大構成図

30

【図10】図9の実施例の靴篭付き杖の靴篭を上方向に移動して格納した状態を示す図

【図11】本発明の他の実施例の構成図

【図12】図11のスプリング式の止め具の拡大構成図

【図13】図11の変形実施例の構成図

【図14】図13の実施例の靴篭の構成図

【図15】図13の変形実施例の構成図

【符号の説明】

1 柄

2 杖

3 靴

40

3 a かがと部

4 靴篭

4 a 凹部

5 バンド

6 滑り止め

7 軸

8 バンド

9 板パネ

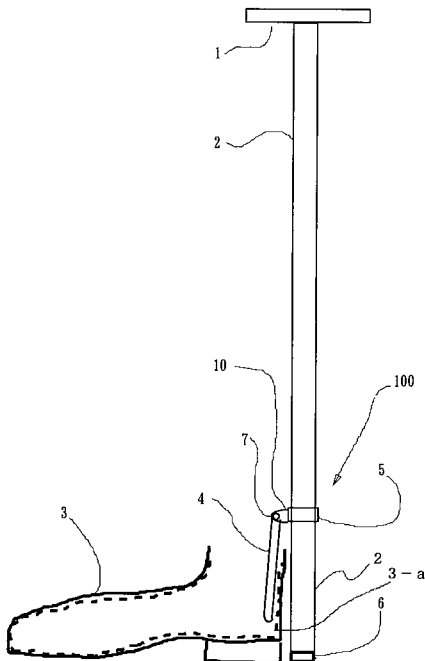
10 ボス

10 - a ストッパー

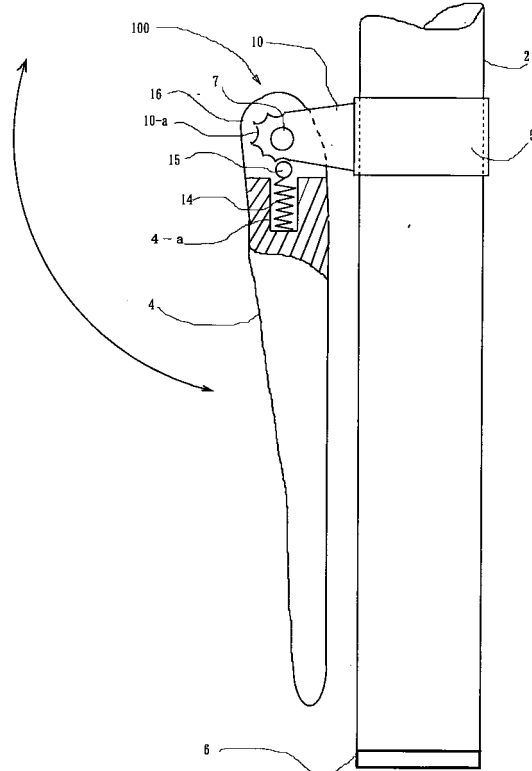
50

- 10 b . . . 凹部
- 11 止めピン
- 11 - a . . . 釘
- 12 穴
- 13 ホック
- 14 スプリング
- 15 ボール
- 16 ボス
- 16 a . . . 凹部
- 17 ネジ付き回転軸
- 18 ロックつまみ
- 19 雌ネジ
- 100 . . . 靴筒取付け機構
- 200 . . . 靴筒止め具

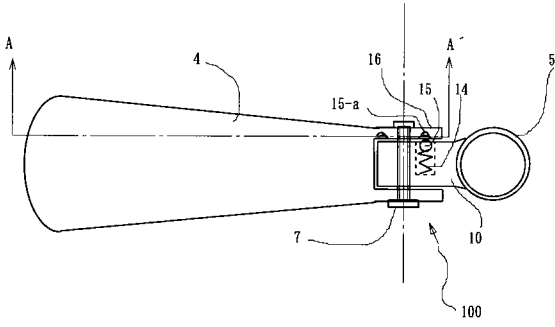
【 図 1 】



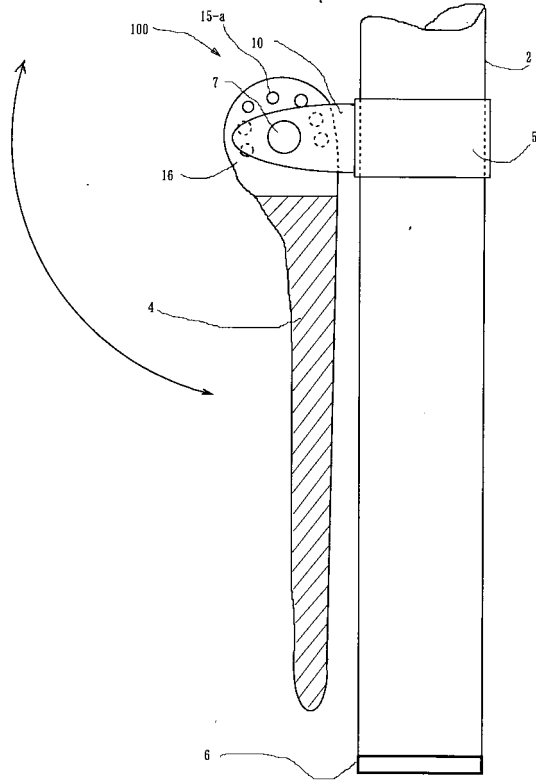
【 図 2 】



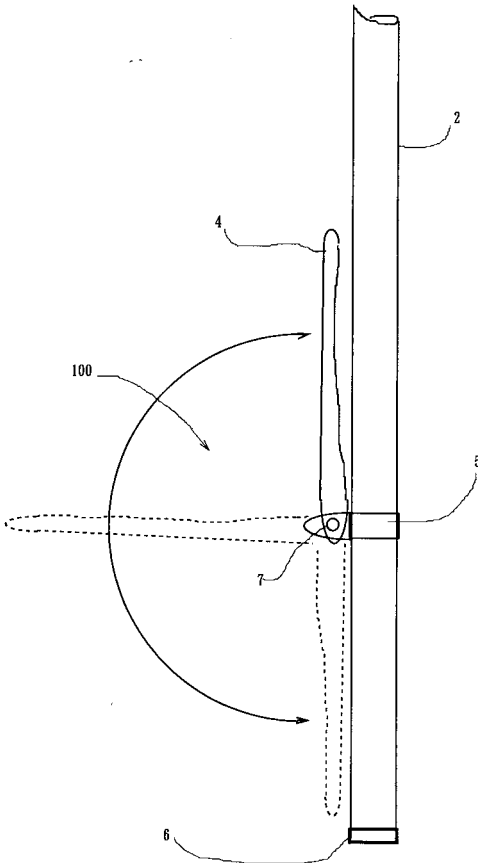
【 図 3 】



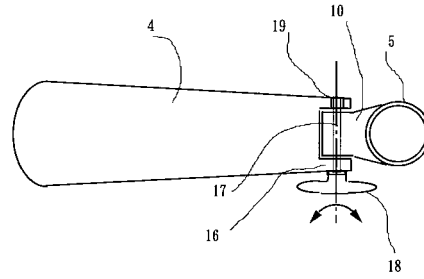
【 図 4 】



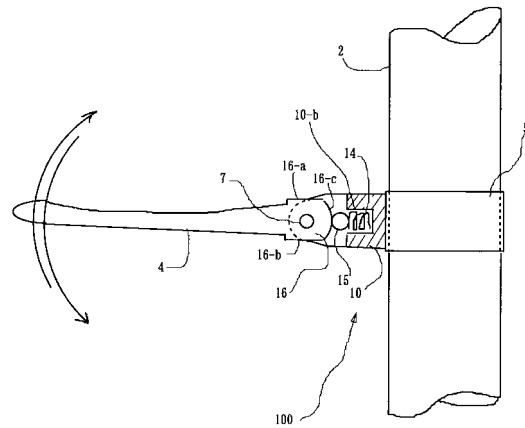
【 図 5 】



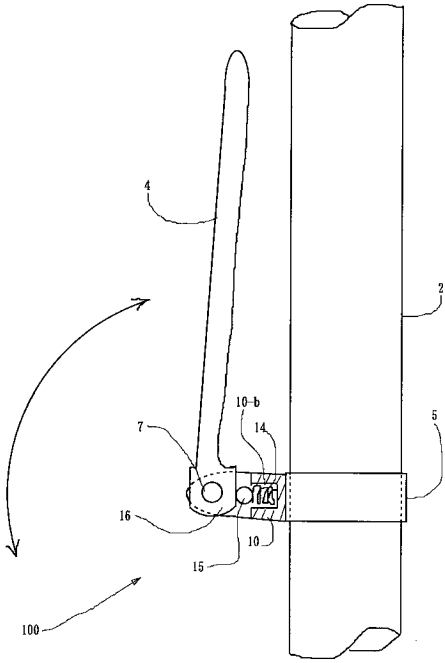
【 図 6 】



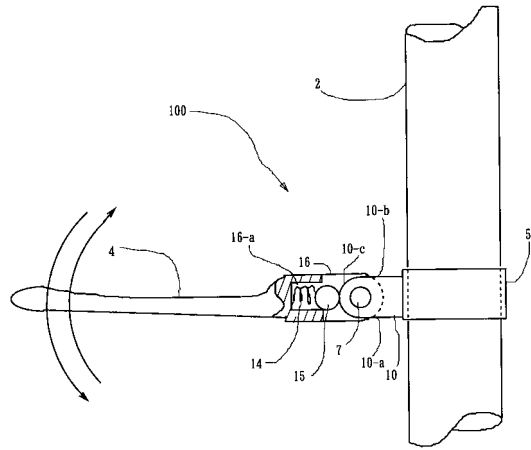
【 図 7 】



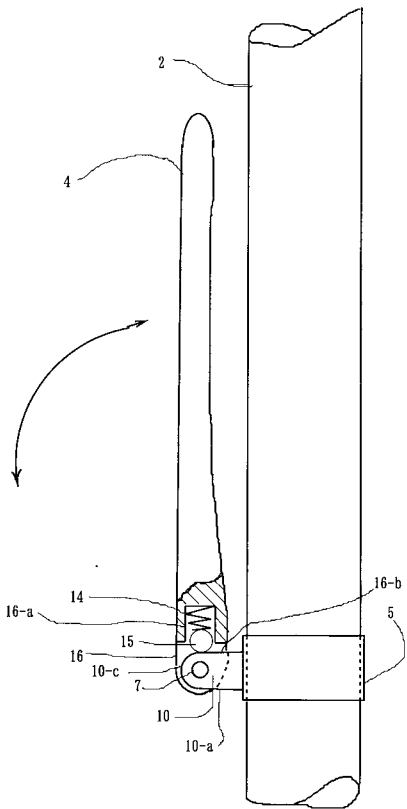
【 図 8 】



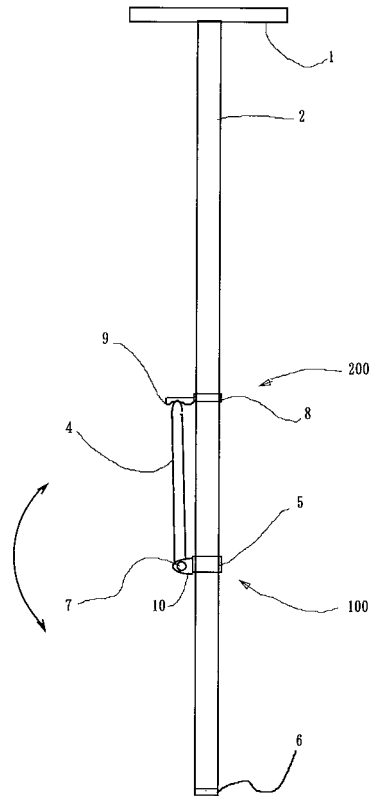
【 図 9 】



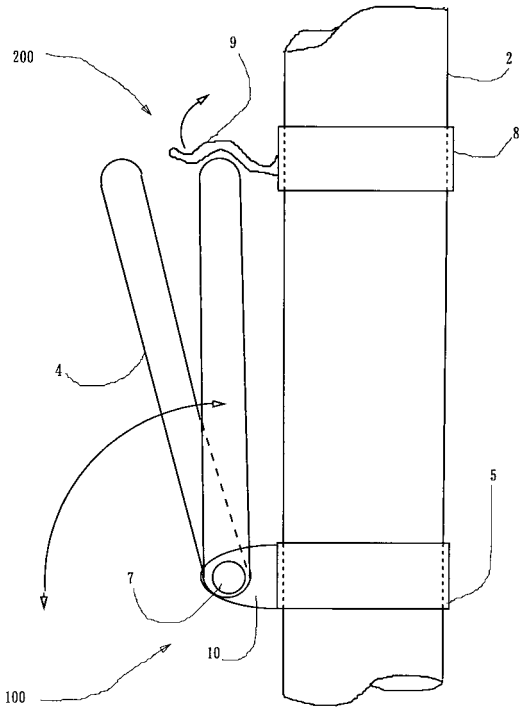
【 図 10 】



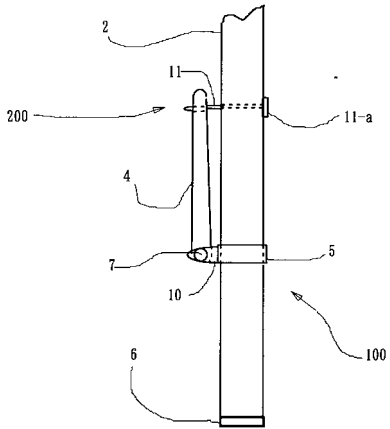
【 図 11 】



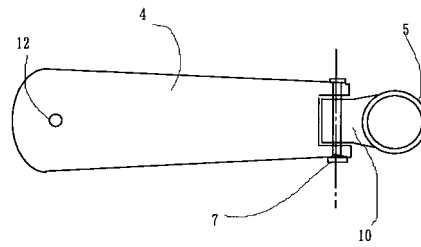
【 図 1 2 】



【 図 1 3 】



【 図 1 4 】



【 図 1 5 】

